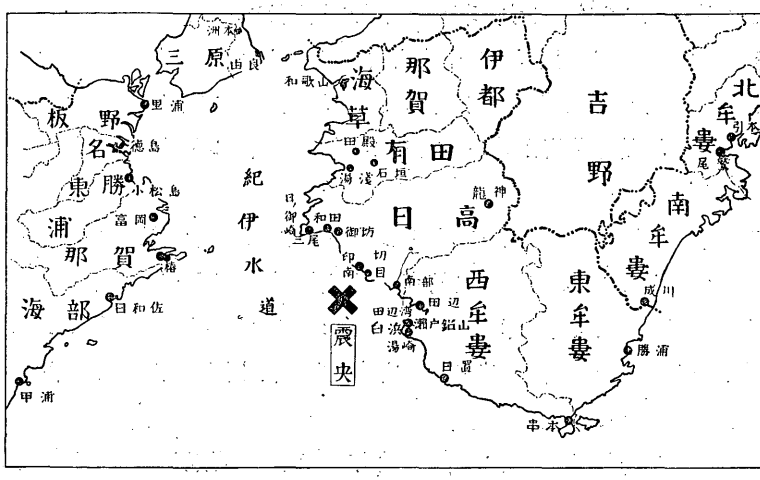
昭和13年1月12日 和歌山縣田邊灣沖地震による被害・地變其他の現象

中央氣象臺地震掛

今回の地震には著しい被害地變等は無かつた。震央に比較的近い和歌山縣南西部の沿岸地方に於て，家屋の破損，築堤・道路等の崩壞を見たのが被害並びに地變の最大なるものであつて，本地震による被害並びに地震の程度は之に依つて略々想像されよう。併し一方被害は可成り遠距離に及び，三重縣下に於てさへ若干の被害を生じたことは，本地震の規模の小ならざることを示すものとして注目に値する。

以下各地測候所よりの報告に基き各地の被害・地變其他の雜現象を纏めて縣別に記す。

和歌山縣[(1)] (1) 被害　被害は主として日高・西牟婁兩郡の沿岸地方に多く，御



坊・田邊各警察署管內を通じ負傷 3（三階から跳下りたため），南部署管內に全

(1) 詳細は和歌山測候所發行の昭和 13 年 1 月 12 日紀伊水道强震調査報告（和歌山縣地震調査報告第 17 號）を參照され度い。こゝには同報告に基き同縣下に於ける被害・地變等の中比較的顯著なもののみを記して置いた。

燒1戸，御坊・田邊・周參見各署管內を通じ家屋の半壞及び破損計7棟を出した。其他屋根瓦の破損，土塀・石垣等の崩壞，商品の轉倒破壞及び道路・埋立等の龜裂・崩壞程度の被害は諸所に見られた。又鐵道の被害としては紀伊西線南部一芳養間及び日置一周參見間に 20 箇所の線路沈下があり，沈下量は最大 100 糎に及んだ。因みに線路の横ずれはなかつた模樣である。

(2) 地變其他　特に著しいものはなかつたが，道路・築堤（主として新設のもの）等に諸所龜裂が現れ，又溫泉・井水等にも多少の變化が見られた。

道路の龜裂は日高・西牟婁・東牟婁の三郡に多く，其中最も顯著なものは西牟婁郡富田川筋の中邊路縣道に現れたもので，龜裂の幅は市ノ瀨村汗川橋附近に於て最大 12 糎に達した。

日高郡龍神溫泉の道路上には微溫泉が湧出したが，約1週間で止つた。其他白濱（西牟婁）・勝浦（東牟婁）・湯川（那智町）等の各溫泉に於て湧出停止，新湯湧出，白濁，湧出量增加等の異常が見られた。

井水の溷濁・增減等は縣下全般に亙つて認められ，海草郡西和佐村に於ては震央より遠く距れるに拘らず，著しい井水の增減があつた。

日高川支流折川（上山路村內）・十津川支流三越川・富田川支流（西牟婁郡鮎川村內）・周參見川支流（周參見町內）等に於ては地震後何れも河水の增加を見た。

(3) 海震　地震當時附近の海上に在つた船舶は，何れも可成りの海震を感じた。

日高郡名田・同郡印南・西牟婁郡周參見各港沖合出漁船は船底に一大衝動を感じたとのことである。又，切目崎南西微南約2浬（135°13′18″E，33°45′N）の海上を航行中の大阪商船那智丸（1,600 トン）は 30〜40 秒間隔にて 2 回海震を感じたとの報告あり，當時海面は白浪立ち，恰も潮流激甚なる場合の如き狀態を呈してゐたといふ。

(4) 發光現象　今回の地震に於て和歌山市，南部町附近から田邊町，周參見町附近に至る各地及び日高郡の山地等で所々發光現象を見たとの報告がある。多くは震動中青白い電光樣の光が瞬間的に見えたと稱するものである。

德島縣（德島市）民家の壁に割目を生じ或は崩落せるもの可成り多く，陳列棚の水平移動，商品の破損等が若干あつた。尙，市內で地震の最中發光現象

を見たと稱する人が 2, 3 人あつた。

（小松島町） 堀拔井戸の濁れるもの多く，神田瀬川北岸では一時井戸水の止つた處もあつた。尙，小松島港務所備付の檢潮儀には何等の異常も記錄されなかつた。

（富岡町） 震前ゴーツといふ地鳴を聞いた。同町大字西路見の一民家では南側の屋根瓦が落下し，負傷者1名を出した。屋根瓦の落ちた家は數軒あつた。原ヶ崎村道（2, 3 年前新設）では南北に長さ約 10 米幅約 1 糎の龜裂を生じた。墓石が 2, 3 轉倒したとの說もあつたが，地震直後起し直されて詳細は不明。井戸水の變化は認められなかつた。

（椿村） 同村大字横尾では被害も井水の變化も認められなかつた。こゝから椿泊に到る道で1ヶ所岩石が崩落した由である。大字椿泊では震前ゴーといふ地鳴を聞いた。井戸水の濁つた所があつた。同村漁業組合濱のコンクリートの中，以前より多少割目の入りかゝつた處が地震のため割目が大きくなり稍南方（海岸の方）にずつた傾向が見られた。

（日和佐町） 同町小學校（管內觀測所）よりの報告に依れば震前地鳴あり，土壁の破損，飾窓のガラスの破壞及び壁に割目を生じた處が多かつた由である。

（里浦村） 同村廣戸海岸の埋立地約5町歩が1尺5寸餘陷落し，南北方向に多數の龜裂を生じた。同埋立地は 3, 4 年前海岸の砂で池を埋立てたもので，中央部に尙周圍數町の小池を殘し，其東側に幅1間餘の排水溝が南北に通つてゐる。龜裂陷落は其溝の兩側に起つたもので，龜裂の長さ 7〜8 間のもの所々にあり，幅は1尺5寸，深さは6寸に及ぶものもあつた。龜裂と龜裂との間には多數の小穴を生じ，水を噴出したが間もなく止つた。小穴の直徑の大なるものは8寸餘に及んだ。又排水溝では逆に南北に1町程の間が2〜3尺隆起した。

三重縣 北牟婁郡引本町では岸壁に構築中の魚揚場（184 秤）が海中に陷沒し，約 3,000 圓の損害があつた。南牟婁郡御船村大字成川では炭竈が墜落して出火し，雜木林1町歩を燒失した。阿山郡上野町馬苦勞町では重量約 2,000 貫の石燈籠が倒れた。

高知縣 建築物其他の被害なく，室戸岬沖に出漁中の釣船も何等海震等の異

常を感じなかつた由である。尙，安藝郡甲浦に於ては1月11日夕刻海面に下記の如き異常が認められたといふ。

土佐商船甲浦扱店では阪神行商船に貨物積込のため用意してあつた傳馬船が午後5時頃急に海水が引いて船底が地につき，船を出すのに困つたが，午後5時半頃その場所から約20米沖に急に波が立ち，アブキ（ウネリが海岸近くで波立つて進行するものを指して言ふ樣である）が押寄せて水面が急に上昇し，傳馬船が浮いて港外の本船迄行けたといふことである。甲浦港は入江になつて居り，それに沿ふ道路の海側は護岸の石積がしてあつて，傳馬船は扱店の前の道路から石段で數尺下りた所に繫船してある。當時の目擊者の談に依り水面の低下量並びに上昇量を測つて見た所，何れも當日の水面（水底より約43糎）より約28糎低下及び上昇したことゝなつた。當日は天氣良く海も凪で，この樣な異常の起る原因は他に考へられず，不審に思つてゐたといふ。因に潮汐表から當日の甲浦の干潮時を推算して見ると，午後7時24分となる。